

## 自治体等との連携事業

### 森田地区地域課題解決支援プロジェクト

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 内山 秀樹

森田地区は、著しい人口増加の対応として“新旧住民の交流促進”、そして2024年3月に予定されている在来線の第三セクター化への対応として“駅の活性化”の2点が地域課題となっています。

これらの課題解決に向けた地元の取り組みを支援するために、「もりのわフェスタ2022」、「森田駅活用検討ワークショップ」、「駅活用社会実験 MoRe:Sta.」に学生と共に参画しました。

#### ①もりのわフェスタ2022」(9/11)

生活情報デザイン専攻2回生18名が、「専門演習」の一環として「こどもの広場」で3グループに分かれて遊びコーナーを出店しました。また、「マルシェへの出店」を卒研として取り組んでいるグループも準備を進めていましたが、全員コロナに感染し残念ながら出店できませんでした。しかし、「森田人Tシャツ」については森田で広めることに意味があるため、教員が地元の方々の応援をいただいで販売を行いました。なお、フェスタのチラシのデザインは、本学西畑ゼミの学生が担当しました。

#### ②駅活用検討ワークショップ(6/18、7/23、8/20)

ハピラインへの移行を見据えて、森田地区が駅の活用策を検討したいとの意向に対して、3回のWSを提案し、その運営支援を教員とゼミ生2名が行いました。各回の

WSの企画案の提案、実施、7グループから出された意見を取りまとめました。

#### ③駅活用社会実験 MoRe:Sta. (11/20)

1回生は、「マイプロジェクト」の一環として4グループに分かれて、「こども縁日」のコーナーに出店しました。①に出店予定だった2年生3名は、「卒業研究」の一環としてアクセサリーショップを出店しました。また、②をテーマとするゼミ生2名は、来場者アンケート等の企画、集計・分析を担当し、卒業研究として駅活用、駅周辺整備に関する提案を行いました。

#### ④まとめ

1回生は学外に出て地域の大人や子どもたちと関わることの新鮮さの中で、地域社会の多様性やコミュニケーションの必要性を学びました。2回生はWS企画やアンケートなどを担当する中で、期限までに資料提出が求められるなど、社会のシビアさを実感し、社会人になるためのプレ学習の好機となったのではないかと思います。

また、地元森田地区にとっては、WSや社会実験の取りまとめや駅活用の提案が地元森田地区の次のステップに向けた検討の弾みとなり、老若男女がさまざまな活動で集える“場”が実現することを期待します。



9/11 もりのわフェスタ



6/18 第1回駅活用WS



11/20 駅活用社会実験